

金沢 ショート ステイ ニュース 2025・秋

こんにちは！

金沢ショートステイセンターです。

暦の上ではもう秋ですが、まだまだ暑い日が続いています。

そんな暑い日本。クーラーも扇風機もない時代には、五感を駆使して涼を感じていました。代表的なのが風鈴です。

『風』の語源には、気を運ぶという意味があり、風が運んださまざまな気人々に影響を与えることで、文化や特徴が生まれると考えられていました。

そのため、風俗、風習、風物詩など、文化や特徴を表す言葉には風がついています。

ですが風が運ぶのは良いものばかりとは限りません。邪悪なものが体に入ると風邪をひき、悪い噂がたてば風評被害にあうなど、災いも引き起こします。こうした邪気を払う為に音を鳴らしたのが風鈴の起源で、風鐸（ふうたく）※お寺やお堂の軒の四隅に吊るす青銅製の鈴のようなものが風鈴のルーツと考えられています。

そして、風が文化を生むように風鈴はその土地の産業と結びつき、その土地ならではの風鈴が生まれ、風流な夏の風物詩として定着していきましました。

例えば、岩手の南部風鈴は、南部鉄器が奏でる澄んだ音色がリーンと長く響きます。東京の江戸風鈴は、透明な吹きガラスに色鮮やかな絵付けが特徴で、ガラス管が当たる鳴り口をわざとギザギザにして、音が出やすいようにしています。同じガラスでも、沖縄の琉球ガラス風鈴は、気泡入りのぼつりとした色ガラス

に、沖縄の豊かな自然を感じでしょう。和歌山の備長炭風鈴は、カラシン・コロンと透明感のある音色が響き、有田焼、瀬戸焼、備前焼など全国の陶磁器の産地では、その特徴を生かした風鈴が作られています。風の流れを聞いて涼を感じる。風情溢れる日本の文化を是非楽しんでみてください。



敬老の日の起源は正確にはわかっていないようですが、言い伝えとしていくつかの説があるそうです。

現在の敬老の日の由来は、一九四七年兵庫県多可郡野間谷村（現在の多可町）の門脇政夫村長が提唱した「としよりの日」が始まりとされています。

これが一九五〇年からは兵庫県全体で行われるようになり、一九五四年には国民の祝日として制定され、全国で祝うようになりました。しかし、「とし

より」という呼び方はどうにかならないか、ということで各方面から異議が起り、「老人の日」にいったん改名されました。

やがて「国民の祝日法」が改正されることとなった一九六六年、「建国記念の日」「体育の日」と共に国民の祝日と制定された際に、現在の「敬老の日」と名称が改められました。

その後、二〇〇一年（平成十三年）にハッピーマンデー制度の施行に伴い、日程の変更が生じました。それまで定着していた「九月十五日」から、「九月の第三月曜日」への移行です。

また、敬老の日とは別に、もともと敬老の日があった九月十五日を「老人の日」に設定し、九月十五日を含む一週間が「老人週間」として老人福祉法が改正されたとのことです。

当施設では、人生の大先輩方に敬意を表し、接してまいります。

金沢ショートステイセンター

横浜市金沢区能見台東2-2

☎ 045-790-1620

